

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K08551

研究課題名(和文) 初期臨床研修医の共感性 (Empathy) に関する量的および質的研究

研究課題名(英文) Quantitative and qualitative research about junior residents' empathy

研究代表者

小比賀 美香子 (OBIKA, MIKAKO)

岡山大学・大学病院・助教

研究者番号：00610924

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の経時的調査では、「共感性」スコアに大きな変化がない年度も認められた。女性研修医は男性研修医よりJSEスコアが高く、共感性が高いことが示唆されたが、研修開始後12ヶ月以降は、女性のスコアが低下し、男女差が消失した。志望診療科については、人間指向診療科を志望する研修医が、技術指向診療科を志望する研修医より共感性が高い傾向にあった。研修開始時のJSEスコアが高いほど、1年後、2年後のJSEスコアも高いことが示唆された一方、1年後、2年後にスコアが低下しやすいことも示唆された。研修医のインタビュー解析結果から、研修医が共感性育成を促進する要因と阻害する要因の間で葛藤している様子が窺えた。

研究成果の概要(英文)：Some previous researches demonstrated decline of JSE score over time during their residency, but residents' JSE score didn't always decline in this study. The female residents' JSE score tended to be higher than the male residents' JSE score, but the female residents' JSE score declined after 1 year. The JSE score of people-oriented specialties tended to be higher than the JSE score of technology-oriented specialties in this study. The JSE score at the beginning of residency was positively correlated with the score 12 months later and 24 months later. The higher the JSE score at the beginning of residency was, the more the score decreased 12 months later and 24 months later. There was no strong correlation between JSE score including score change and evaluation score. At the beginning of residency, "internal conflict" may cause the decline of empathy and self-efficacy.

研究分野：医学教育

キーワード：共感性 研修医

1. 研究開始当初の背景

従来の臨床研修制度は努力規定で、専門診療科に偏った研修が行われ、「病気を診るが、人は診ない」医師を養成すると評されていた。そこで平成16年、「医師として的人格の涵養と基本的な診療能力の修得」を基本理念・到達目標に掲げた新医師臨床研修制度が開始され、診療に従事しようとする医師に、2年以上の臨床研修が必修化された。

平成16年以降、新制度下での初期臨床研修に対する様々な評価・検証が行われてきた。福井らは、研修医対象アンケート結果により、行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能を含む、幅広い臨床能力の自己評価が全般的に向上したと報告した(1)。この報告により、新制度の一定の教育効果が示された。しかし、どのような研修プログラムが、「医師として的人格の涵養と基本的な診療能力の修得」を十分に促せるのかを、客観的に評価・検証した研究は少ない。

医師のプロフェッショナリズムにおいて、思いやりのあるケア(Compassionate care)と同様、患者に対する医師の「共感性(Empathy)」は主要な要素として近年注目されており(2)、優れた「共感性」は、医師として育成すべき人格のひとつと考えられている。医師の優れた「共感性」は、医師-患者関係を良好なものにすることを通して、患者の満足度やコンプライアンス、アドヒアランス、診断の正確性を向上させ、結果的には患者の臨床アウトカムも改善すると報告されており(3)、「共感性」の優れた医師の養成は、今日の医学教育に要請される最も重要な課題のひとつである。

本邦では、研究分担者の片岡らが、医学部学生を対象に「共感性」を Jefferson Scale of Empathy (JSE) を用いて評価し、学年が上がるにつれ緩やかに共感性が上昇すると報告している(4)。初期臨床研修医に関しては、平山らが、1年目から2年目の経年変化で共感性がわずかに低下することを、JSE を用いて報告しているが(5)、どのような要因が初期臨床研修医の「共感性」に寄与するかを詳細に分析した報告はなされていない。

研究代表者はこれまで、岡山大学病院研修プログラムに対する評価について調査、報告し(6)、研修プログラムの改善を行ってきた。今後優れた「共感性」を有する医師を育成する研修プログラム策定を目指す上で、今回我々は、医師のプロフェッショナリズムの主要な要素である「共感性」に着目した。

(1) 福井次矢ら「新臨床研修制度の影響：臨床研修の現状 - 大学病院・研修病院アンケート調査結果・医学教育の現状と展望」(日本内科学会雑誌 96 巻, 12 号, 2681-2694, 2007)

(2) 片岡仁美「共感と医療について(エンパシースケールを中心に)」(日本内科学会雑誌 101 巻, 7 号, 2103~2107, 2012)

(3) Hojat M et al. "Personality

assessments and outcomes in medical education and the practice of medicine: AMEE Guide No.79" (Medical Teacher, Vol. 35, e1267-e1301, 2013)

(4) Kataoka HU et al. "Measurement of empathy among Japanese medical students: psychometrics and score differences by gender and level of medical education." (Academic Medicine, Vol. 84, No.9, 1192-1197, 2009)

(5) 平山陽示ら「JSPE 日本語版による医学生・研修医の共感性評価-第2報(経年変化)(会議録)」(医学教育 45 巻 Suppl. 181, 2014)

(6) 小比賀美香子ら「岡山大学病院における、初期研修医アンケートの結果(会議録)」(医学教育 43 巻 Suppl. 171, 2012)

2. 研究の目的

初期臨床研修医の「共感性」を、客観的スケールを用いて経時的に評価する。

初期臨床研修医の経時的な「共感性」スコアをもとに、「共感性」育成について、促進する要因と阻害する要因を解明する。

初期臨床研修医に対するインタビュー結果をもとに、初期臨床研修医の「共感性」がどのように育成されるか、その過程を質的研究手法にて詳細に解析する。

3. 研究の方法

初期臨床研修医の「共感性スコア」を、JSEにて、3年間にわたり調査、経時的評価を行う。JSEは20項目の7件法の問いで構成された自記式スケールであり(140点満点で、共感性が高いほど高得点となる)各国語に翻訳・使用され、有用性が報告されている。

初期臨床研修医フィードバックシートを用いて、研修医のコンピテンシーについて量的評価を行う。フィードバックシートは、各診療科研修終了時に実施している。「患者管理」「医学知識」「向上心」「コミュニケーション能力」「プロフェッショナリズム」「システムに基づいた研修」別に細項目があり、3段階評価となっている。研修医の客観的評価と「共感性」の関連の有無について解析する。

初期臨床研修医へのアンケート調査を実施し、複数の項目について量的評価を行う。調査内容は、志望診療科、研修診療科、研修期間など以外に、研修への満足度、研修の自己評価などを含み、量的評価を行う。アンケート調査結果と「共感性」の関連の有無について解析する。

初期臨床研修医全員を対象に、4月、10月、3月に半構造化インタビュー(個人面接)を行う。「患者さんの気持ちや苦しみについて研修医として印象に残ったこと」「患者さんの気持ちについて理解できたと感じたこと、理解できなかったと感じたこと」「患者さんとの関係や患者さんの理解についての

反省点や今後の目標とすること」についてインタビューを実施。各インタビュー内容については、SCAT(Steps for Coding and Theorization) による解析を行う。SCAT は、4ステップのコーディングと、テーマ・構成概念を紡いでストーリーラインを記述、そこから理論を記述する分析手法であり、開発以来、これまでに数多くの研究で用いられている質的データ分析手法である。本研究では、初期臨床研修医の「共感性」がどのように育成されるか明らかにすることを目的とする。上記で得られた「共感性スコア」と、研修医コンピテンシー客観的評価、研修医アンケート結果の各パラメーターとの関連について、Spearman 相関係数、Pearson 相関係数、Student 検定、カイ二乗検定、多変量解析などを用いて分析する。経時的データより、「共感性スコア」、その他各パラメーターの経時的推移、またパラメーター間の関連の推移につき詳しく分析を行う。また、SCAT を用い、初期臨床研修医の「共感性」に影響を及ぼす要因を解析、初期臨床研修医の「共感性」がどのように育成されるか質的研究手法も用いて解析する。

4. 研究成果

共感性スコアの推移

平成 26 年度岡山大学病院初期研修医の平均 JSE スコアは、研修開始時 (115.7 ± 12.7) に比べ、12 ヶ月後 (110.4 ± 12.2) に有意に低下したが ($p = 0.044$)、2 年目の JSE スコアは大きく変化しなかった。平成 27 年度および平成 28 年度研修医の平均スコアは、平成 26 年度研修医に比べ、研修開始時に低い傾向にあり、研修 1~2 年目を通して有意な変化を認めなかった。

共感性スコア：性別、志望診療科、出身大学による比較

研修開始時、6 ヶ月後の女性の平均 JSE スコアは、男性に比べ有意に高かった ($p = 0.015$ および $p = 0.017$)、12 ヶ月後以降は、女性のスコアが低下し男女差が消失した。

人間指向診療科を志望する研修医の平均 JSE スコアは、技術指向診療科を志望する研修医より高い傾向があり、研修開始 6 ヶ月後では有意差を認めた ($p = 0.007$)。なお、志望診療科は、内科、小児科、精神科を、「人間指向診療科 (People-oriented specialties)」、麻酔科、外科、病理診断科、放射線科、眼科、整形外科、産婦人科、泌尿器科を、「技術指向診療科 (Technology-oriented specialties)」、救急科、公衆衛生、リハビリテーション科などを「その他」とした。

他大学出身者は環境の変化が大きく、ストレスが多いことが想定されたが、本大学、他大学出身者の平均 JSE スコアに有意な差を認めなかった。

研修開始時の共感性スコア：12 ヶ月後、24 ヶ月後の共感性スコア、1 年および 2 年のスコア変化との相関

	12ヶ月後JSEスコア	24ヶ月後JSEスコア	1年のスコア変化	2年のスコア変化
研修開始時JSEスコア	r= 0.656	r= 0.493	r= -0.349	r= -0.440
	p < 0.001	p < 0.001	p = 0.001	p = 0.001

研修開始時の JSE スコアは、12 ヶ月後および 24 ヶ月後の JSE スコアと有意に「正」の相関を示し、研修開始時の JSE スコアが高いほど、12 ヶ月後、24 ヶ月後の JSE スコアは高かった。

研修開始時の JSE スコアは、1 年および 2 年のスコア変化と有意に「負」の相関を示し、研修開始時の JSE スコアが高いほど、1 年後、2 年後にスコアが低下した。

共感性スコアと指導医による研修医評価

初期臨床研修医フィードバックシートを用いた指導医による研修医評価と、共感性スコアについて解析したが、有意な関連を認めなかった。

インタビュー解析結果

研修開始時に共感性スコアが高く、1 年後に低下した研修医へのインタビューの解析結果より、研修開始時に「疾患・臓器」から「患者全体」へ視点が転換されたが、多忙な中、「患者全体」から「疾患・臓器」へ視点が逆転換されたこと、不適切なロールモデルの存在などが、共感性育成を阻害する要因であることが示唆された。一方、研修医自身の過去の経験、患者さんにより近い存在の家族、介護者、看護師との関わりは、共感性育成を促進する可能性も示唆された。

以上より、本邦の先行研究で、初期研修医の共感性が研修 2 年間で低下するとの報告があるが、本研究では、経時的調査で「共感性」スコアに大きな変化がない年度も認められた。これまでの先行研究同様、女性研修医は男性研修医より JSE スコアが高く、共感性が高いことが示唆されたが、研修開始後 12 ヶ月以降は、女性のスコアが低下し、男女差が消失した。志望診療科についても、先行研究同様に、人間指向診療科を志望する研修医が、技術指向診療科を志望する研修医より共感性が高い傾向にあった。技術指向診療科を志望する場合、研修開始後 6 ヶ月で JSE スコアが大きく低下した。研修開始時は、志望診療科で研修を開始する研修医が多く、技術指向診療科での研修内容がスコア低下に影響した可能性も考えられた。環境の変化が大きい他大学出身研修医と、本大学出身研修医の平均 JSE スコアに差を認めず、本研究では、出身大学と共感性に関連を認めなかった。研修開始時の JSE スコアが高いほど、1 年後、2 年後の JSE スコアも高いことが示唆された一方、1 年後、2 年後にスコアが低下しやすいことも示唆された。研修医のインタビュー解析結

果から、研修医が共感性育成を促進する要因と阻害する要因の間で葛藤している様子が窺え、指導医はロールモデルとして適切にふるまい、研修医のふり返りなどを通じて研修医をきめ細かくサポート、指導していく必要があると考えられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

小比賀美香子、大塚文男、岡田裕之、新しい内科専門医制度、岡山医学会雑誌、査読無、130巻、1号、2018、25-30、
<https://doi.org/10.4044/joma.130.25>

〔学会発表〕(計9件)

小比賀美香子、医療におけるナラティブ、JAILA第7回全国大会、2018年3月10日、鶴見大学(神奈川県横浜市)

小比賀美香子、総合性と専門性、そして大学と地域のハブとなる総合内科、第16回日本病院総合診療医学会学術総会、2018年3月2日、別府コンベンションセンター(大分県別府市)

小比賀美香子、片岡仁美、三好智子、小川弘子、野間和広、佐藤明香、宇賀麻由、大塚文男、岡山大学病院初期研修医に対する「共感性」スコアを使用した経時的調査について、第49回日本医学教育学会大会、2017年8月18日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)

Yoshito Nishimura、Mikako Obika、Tomoko Miyoshi、Hitomi Kataoka、Fumio Otsuka、Don't Let Your Fire Go Out; Initial Report of a course of a Cross-Sectional Study into Resident Burnout and Its Factors in a Japanese University Hospital、第49回日本医学教育学会大会、2017年8月18日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)

徳増一樹、小比賀美香子、尾原晴雄、菊川誠、大塚文男、研修医のモチベーションはどのように上がるのか、第14回日本病院総合診療医学会学術総会、2017年3月3日、岡山大学鹿田キャンパス(岡山県岡山市)

Mikako Obika、Takashi Otani、Hitomi Kataoka、Tomoko Miyoshi、Fumio Otsuka、A qualitative analysis of an interview with a resident, who has a high score on the Jefferson Scale of Empathy (JSE)、第48回日本医学教育学会大会、2016年7月29日、大阪医科大学(大阪府高槻市)

村上拓、山本晃、小比賀美香子、三好智子、万代康弘、伊野英男、片岡仁美、大塚文男、医療系ワークショップが参加者およびスタッフに与える影響についての前向き研究、第48回日本医学教育学会大会、2016年7月29日、大阪医科大学(大阪府高槻市)

山本晃、村上拓、小比賀美香子、三好智子、

万代康弘、伊野英男、片岡仁美、大塚文男、岡山大学病院医科臨床研修医に対するシミュレーション教育に関する介入研究、第48回日本医学教育学会大会、2016年7月29日、大阪医科大学(大阪府高槻市)

Obika M.、Kataoka H.、Miyoshi T.、Watanabe F.、Noma K.、Otsuka F.、One year follow-up of junior residents' empathy using The Jefferson Scale of Empathy (JSE)、第47回日本医学教育学会大会、2015年7月24日、新潟コンベンションセンター(新潟県新潟市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小比賀 美香子 (OBIKA, Mikako)
岡山大学・大学病院・助教
研究者番号：00610924

(2) 研究分担者

片岡 仁美 (KATAOKA, Hitomi)
岡山大学・医歯(薬)学総合研究科・教授
研究者番号：20420490

三好 智子 (MIYOSHI, Tomoko)
岡山大学・医歯薬学総合研究科・助教
研究者番号：40444674

(3) 連携研究者

大谷 尚 (OTANI, Takashi)
名古屋大学・教育学部・教授
研究者番号：50128162